

は、「……ですか」の疑問の「か」ともなる
何程 「いくら」と同じ手まね。

生意氣 指頭を上にした親指の背で鼻頭
を左右にこする。

波 掌を上向け五指の指頭を左にした右
手を左から右へと波動を描く。

涙 「泣く」の何の手まね。

滑めらか 五指の指頭を上にしたし掌を左側
にした右手で頬をすり上げる。頬の滑めらか
さを暗示する。

悩む 頭をかかえて悩む身振。即ち掌を内
側にして彎曲させた五指の指頭を前額部に押
しつける。

習う 掌を内側にして、指頭を上にした
人差指を少し曲げて、前方から鼻に向けて行
く。「教えを受ける」即ち教えるの受身。

做う 「真似する」と同じ手まね。

習わし 掌を下に向けた左手の手首の上

に、掌を内側にし五指の指頭を左にした右
手をのせると同時に、五指を拳に掘る。何度
も「習わし」になって手についていること。

成る 掌を内側にし指頭を上にした人
差指の両手を左右から相寄りして両腕をX形
に交叉する。右のものが左へ、左のものが右
へ変る即ち「成る」である。

並らぶ (何) 両手何れも五指の指頭を上
にし、右手(掌は左向け)と左手(掌は右向
け)を前後に並らべ一列縦隊の形をつくる。

(何) 両手何れも五指の指頭を上にして掌
を内側にした両手を左右に並らべて一列横隊
の形をつくり隊列の長さを表わすために、両
手を左右に離して行く。

成程 うなづいてから「ほんとう」の手ま
ねをする。

難解 五指の指頭を上にして掌を内側に
して鼻頭をその中指で二、三度打って小首を

傾げる。

難儀 むづかしい 悩む

何度 何遍 またーいくら。

何月何日 いくつー月 何ーいくつ

右の手で「いくつ」即ち右の手の親指より順に折って行って、(4) の月を表わして、その下に更に「いくつ」を手まねする。この場合、「月」の表現を省いてよい。右の手を上、左の手をその下にして、同時に「いくつ」をすればよい。勿論上の右の手は月を下の左の手は日の心得。

○三月五日 三ー月(4)ー五。また、「月」を省いて、右手で「三」を表わし、その下に左手で「五」を表わす。

○元旦(一月一日) 一ー月一ー。または一ー

二

似合う 「適する」 「叶う」と同じ手まね

課やか 「公園」と同じ要領で表わす。人

々の往来はげしいこと。

憎む 肘をたてに曲げてた手を強く握り拳

にして、空間を叩たくように運動さしながら

前に突き出す。

肉身 頬肉を人差指と親指で二度ばかりつ

まみ、二指の指頭を合わせて前方へ引き出す

逃げる 「脱走」と同じ手まね。

虹 右手の掌を下に向け指頭を左にさした

親指と人差と中指の三指(七の数即ち七色)

で左から右へ弧を描く。

贗物 嘘造るー物(いろいろ)

日限 約束ー何月何日

日常 普通ー毎日